



どこでもTCU

募集要項

2023年度 秋・冬学期

2023年6月30日版

目次	- ページ
----	-------

1.「どこでもTCU」の目的	- 2
2. 履修証明プログラム	- 2
3. 受講資格	- 2
4. 受講について	- 3
5. コース紹介(2023 年度)	- 4
6. 注意事項	- 7
1) 授業について	
2) 単位の取得について	
7. 申込みから受講まで	- 8
8. 受講料	- 9
9. 修了証	- 9
10. 本学(大学院含む)に正規入学後の単位認定	- 9
11. 問合せ先	- 10

資料

2023 年度シラバス	- 11
2023 年度学事暦	- 35
東京基督教大学 信仰基準	- 36

1. 「どこでもTCU」の目的

本学(TCU)の『理念とミッション』の一つに「開かれた神学教育」があります。

「どこでもTCU」は、本学キャンパス内の教室、またオンラインツールを用いて、日本中・世界中どこからでもTCUの正規科目を受講することができます。

聖書や神学の学びをとおり、教会等での宣教や奉仕に、またその働きがさらに地域社会への貢献に繋がることを目的としています。

2. 履修証明プログラム

「どこでもTCU」での学びを体系的にできるよう、学部(学士課程)レベル5コース、大学院(修士課程)レベル3コースがあります。

各コースの科目群から3科目(総時間数 60 時間以上)を履修または聴講(*)したのち、希望者には証明書を発行します。もちろん、コースに関わらず 1科目からでも受講可能です。コースの詳細は、3ページ「コース紹介」にて確認ください。

*「履修」：授業を受講し、試験を受けて単位取得までを目指す

「聴講」：授業を聴講するだけで、単位取得を目指さない

3. 受講資格

受講資格は、以下のすべてを満たす方です。

- ・本学の[信仰基準](#)に同意するキリスト者 (* 31 ページ「東京基督教大学信仰基準」参照)
- ・大学入学資格がある者 (大学院科目受講希望者は大学院入学資格がある者)
- ・受講に必要な最低限の IT スキルを有する者、または身近に IT サポートができる者があること。
- ・日本語能力

履修：日本語能力試験 N1 レベル程度の日本語能力がある者

聴講：日本語能力試験 N2 レベル程度の日本語能力がある者

下記について該当する場合は、加えて条件を満たす必要があります。

- ・大学院科目受講希望者
神学の基礎的な知識があることが望ましい。また、「聖書学コース」の科目受講希望者は、聖書言語の知識を有する者。
- ・日本国内在住の外国籍の方
正規の在留資格を有する者。

* 本プログラムでは、在留資格「留学」は取得できません。

4. 受講について

1) 受講方法について

受講方法は以下の4種類です。受講方法は、原則として学期が始まってからの変更は受け付けません。

① オンラインでの受講

[リアルタイム履修(単位取得あり)]

- ・正規学生と同じ時間に zoom(*) を用いて授業をオンライン受講する方法です。受講に関しての情報提供や課題の提出などには、本学の学修システム「TCUオンライン」を使用します。(受講許可後に、ITオリエンテーションがあります。)

* zoom: オンライン会議システム

- ・単位の取得を目指すため、レポート課題の提出、試験の受験、その他必要な要件を満たす必要があります。

[オンデマンド聴講(単位取得なし)]

録画された授業の動画を、それぞれ都合の良い時間に視聴し、自分のペースで学ぶ方法です。

(録画視聴期間は1週間。) 担当教員または担当者から送られる受講案内メールから、授業録画の視聴し、視聴確認フォームの提出を行ないます。単位取得を目指さないため、課題や試験等は課されません。

② 対面(教室)での受講

[対面での履修(単位取得あり)]

- ・正規学生と同じ時間に、本学キャンパス内の教室で受講します。受講に関しての情報提供や課題の提出などには、本学の学修システム「TCUオンライン」を使用します。(受講許可後に、ITオリエンテーションがあります。)
- ・単位の取得を目指すため、レポート課題の提出、試験の受験、その他必要な要件を満たす必要があります。

[対面での聴講(単位取得なし)]

- ・正規学生と同じ時間に、本学キャンパス内の教室で受講します。受講に関しての情報提供は、本学の学修システム「TCUオンライン」を使用します。(受講許可後に、ITオリエンテーションがあります。)
- ・単位取得を目指さないため課題や試験等は課されませんが、授業終了後に出席確認フォームから、授業の感想・質問などを入力します。

2) 学期と授業時間について

- ・本学は3学期制で、学期期間は以下のとおりです。

(授業日等については、36 ページ「2023 年度 東京基督教大学 学事暦」参照)

春学期 : 2023 年 4 月 6 日(木)～2023 年 6 月 30 日(金)

秋学期 : 2023 年 8 月 25 日(金)～2023 年 11 月 14 日(火)

冬学期 : 2023 年 11 月 27 日(月)～2024 年 2 月 27 日(火)

- ・各学期の授業は 10 週(週 1 回)、1 回の授業は 140 分

ヘブライ語は 10 週(週 2 回)、1 回の授業は 70 分

1 限	8:40 - 9:50	2 限	9:55 - 11:05
3 限	13:00 - 14:10	4 限	14:15 - 15:25
5 限	15:45 - 16:55	6 限	17:00 - 18:10

5. コース紹介(2023 年度)

開講科目は年度ごとに異なります。

本学 Web サイト https://www.tci.ac.jp/theology_department/non-degree/docodemotcu.html



2023 年度の聖書言語は、ヘブライ語のみの開講となります。(ギリシア語は 2024 年度開講予定。)

教団等の教職者試験受験予定者で、試験に必要な科目の受講については、直接担当までお問合せください。

1) 学部コース (5 コース)

コース名	【学部】 聖書		
概 要	聖書の成り立ちや著者、またその歴史的背景や旧・新約聖書の関係性、さらには聖書の各書の基本的内容といった「聖書学のベーシック」を学ぶコースです。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	キリストと世界Ⅱ：旧約	菊池 実	春・水曜・3-4 限
	キリストと世界Ⅲ：新約	伊藤明生	秋・水曜・1-2 限
	聖書学Ⅰ：旧約通論	菊池 実	秋・金曜・3-4 限
	注意：冬学期の提供科目はありません。		

コース名	【学部】 ヘブライ語		
概 要	聖書原語に挑戦しましょう。旧約聖書の言葉であるヘブライ語の文法を 1 年をかけて学び、新約を含めた聖書の全体の深みを味わうクラスです。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	ヘブライ語 1 (文法 1)	菊池 実	春・火、金曜・2 限
	ヘブライ語 2 (文法 2)	菊池 実	秋・火、金曜・2 限
	ヘブライ語 3 (文法 3)	菊池 実	冬・火、金曜・2 限

コース名	【学部】 神学		
概 要	聖書とはどのような本か？クリスチャンが「神学をする」どういうことか？教会は救いや終末について歴史の中でどのように教え、またどのような歩みをしてきたか？これらのような問いかけに対して「神学的」に考察するコースです。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	キリストと世界Ⅰ：神学	岡村直樹	春・金曜・3-4 限
	歴史神学Ⅵ：日本キリスト教通史	山口陽一	秋・水曜・5-6 限
	組織神学Ⅱ：救済論・教会論・終末論	齋藤五十三	冬・火曜・3-4 限

コース名	【学部】 ユースミニストリー		
概 要	ユース（10 歳～20 歳の若者）の信仰成長や信仰形成の様子、また彼らの心理性や文化について学びます。さらにミニストリーという言葉の理解を通して、より良く彼らに寄り添うすべを学ぶコースです。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	キリスト教教育Ⅰ：神学と理念	徐 有珍	春・水曜・5-6 限
	ユース・ミニストリーⅠ：神学と実践	岡村直樹	秋・木曜・1-2 限
	ユース・ミニストリーⅡ：思春期の理解	岡村直樹 徐 有珍	冬・木曜・1-2 限

コース名	【学部】 教会と社会		
概 要	「心理学Ⅰ、Ⅱ」では、人間の心理的構造やその課題、教会のあり方や性別、さらには信仰形成や教会形成について、様々な視点からクリスチャンとして学びます。 「グローバル・スタディーズ入門（国際関係論）」では、戦争、気候変動、難民、格差、貧困など、私たちの尊厳や日常生活に関わる課題を取り上げ、国境を超えたグローバルな関係性を重視しながら、キリスト者としての視点を広げることをねらいとします。主に国際関係論の概念を理解し、グローバルな課題解決への道筋について共に考える科目です。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	社会科学Ⅲ：心理学Ⅰ	岡村直樹 徐 有珍	秋・水曜・5-6 限
	社会科学Ⅳ：心理学Ⅱ	岡村直樹 徐 有珍	冬・水曜・5-6 限
	グローバル・スタディーズⅡ：グローバル・スタディーズ入門（国際関係論）	森田哲也	冬・水曜・3-4 限

2) 大学院コース（3コース）

コース名	【大学院】聖書学		
概 要	神のみことばであると同時に人間の言葉でもある聖書をより良く読み、解釈することを「解釈学」で学び、2023 年度は旧約聖書から歴史書を、新約聖書からはパウロ書簡をそれぞれ学びます。 ＊ 「パウロ書簡」、「歴史書」の受講は、聖書言語の基礎知識が必要。 「解釈学」は、「オンデマンド聴講」の募集はありません。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	解釈学	伊藤明生	春・水曜・5-6 限
	パウロ書簡	伊藤明生	秋・火曜・3-4 限
	歴史書	ラントル・ショート	冬・火曜・3-4 限

コース名	【大学院】実践神学		
概 要	クリスチャンに与えられた、人に寄り添い、その成長に関与するという使命を果たすには、自己を理解すること、そして他者を理解することが必要不可欠です。聖書を基盤としつつ、心理学や教育学の視点からそれらについて考察します。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	人間理解とミニストリー	岡村直樹	春・火曜・3-4 限
	キリスト教と教育	岡村直樹 徐 有珍	秋・火曜・3-4 限
	キリスト教と心理	岡村直樹	冬・火曜・3-4 限

コース名	【大学院】歴史神学(*)		
概 要	現代のキリスト教神学を考える上で避けて通ることの出来ない宗教改革の歴史、そして日本におけるキリスト教の歴史を学びます。また聖書の教えを体系的にまとめたキリスト教の主要な教理の形成の歴史について学びます。		
科目群	科目名	担当教員	学期・曜日・時間
	キリスト教の教理形成の歴史	齋藤五十三	春・金曜・3-4 限
	近現代のプロテスタント神学	須藤英幸	秋・水曜・3-4 限
	日本キリスト教史	山口陽一	冬・水曜・5-6 限

6. 注意事項

以下の事を確認、了承のうえ、申込みを行なってください。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況次第では、申込み科目について変更が生じる場合があります。変更が生じた場合等、申込み時に登録されたメールアドレスや電話番号に連絡しますので、連絡が取れる状態にしておいてください。
- ・連絡が取れない場合、次学期から受講をお断りする事があります。
- ・授業の質を担保するため、科目ごとに受講人数の制限があります。また、オンラインでの履修と聴講の申込みが3名に満たなかった場合は、対面受講のみの受入れとなることがあります。

1) 授業について

- ・授業開始前あるいは受講期間中に授業実施形態、担当教員、開講曜日、時限等が変更になる場合、また閉講になる場合があります。
- ・本学(大学院)では少人数教育が行われており、学びの共同体と信頼関係の形成のため、クラス開始時には自己紹介の時間が設けられる場合があります。(匿名での授業参加はできません。)
- ・受講科目の運営に支障をきたすような行為や直接的・間接的を問わず他の正規学生の受講を妨げるような行為がなされたとき大学が判断した場合には、その後の受講資格が失われることがあります。
- ・受講生からの、本学が正規学生へ行なう標準的教学支援事務対応レベルを超えた過度な要望等には対応できかねます。

2) 単位の取得について

- ・成績評価は本学(本大学院)の正規学生と同じく、原則として100点満点で行い、以下の基準により判定し合格の場合にのみ単位が与えられます。(評価のFは不合格で、単位取得となりません。)
- ・取得した単位については、本学(本大学院)へ正規入学後に認定が可能ですが、他大学での認定については、保証できかねます。認定を希望する大学にお問合せください。

評点(点)	評価	合否(単位)
100-95	A	合格(単位取得)
94-90	A-	
89-87	B+	
86-83	B	
82-80	B-	
79-77	C+	
76-73	C	
72-70	C-	
69-65	D+	
64-60	D	
59-0	F	不合格(単位取得なし)

7. 申込みから受講まで

受講希望の方は、オンライン(インターネット)上の本学 Web ページからお申込みください。

なお、大学院科目の「リアルタイム履修」、「対面(教室)での履修」を希望する場合は、Web ページからの申込みに加え、以下の手続きが必要です。

- ・審査料(5,000 円)の納入
- ・受講理由(500～800 字程度) 受講申込みフォームから入力
- ・最終学歴の卒業(修了)証明書と最終学歴(または神学教育)の成績証明書の提出
(提出期間：受講申し込み期間に同じ)

本学 Web 申込みページ

https://www.tci.ac.jp/theology_department/non-degree/docodemotcu.html



オンラインからの受講申込期間

春学期受講分：2023 年 3 月 6 日(月)～ 3 月 23 日(木) 終了

秋学期、冬学期受講分：2023 年 7 月 24 日(月)～ 8 月 7 日(月)

なお、申し込みの際に提供された氏名、住所、その他の個人情報は、本プログラムの実施に必要とされる範囲、またはこれらに付随する事項を行なうために適正な範囲で利用し、上記の目的以外に利用することはありません。

申し込みの流れ

[受講希望者] 受講申込み

本学 Web 申込みページから情報を入力ください。(氏名、希望受講科目、所属教会 等)

* 所属教会確認のため、牧師等のメールアドレスが必要です。

* 大学院科目の履修希望者は卒業(修了)証明書、成績証明書を提出



[本 学] メールにて、受講内容を通知

受講科目について、受講方式、開講時間等をお知らせします。



[受講希望者] メールにて、受講内容の同意



[本 学] メールにて、受講許可を通知



[本 学] メールにて、受講料納付の案内、必要書類の提出依頼



[受講希望者] IT オリエンテーション (リアルタイム履修で初めて受講する方のみ)



受講開始



[受講希望者] 受講料の納付

8. 受講料

学部科目	リアルタイム履修 対面での履修	オンデマンド聴講 対面での聴講
一般	45,000 円	36,000 円
支援会員(*)	40,000 円	31,000 円

大学院科目	リアルタイム履修 対面での履修	オンデマンド聴講 対面での聴講
一般	65,000 円	52,000 円
支援会員(*)	60,000 円	47,000 円

* 支援会員：東京キリスト教学園に献金を頂いた方（献金額は自由）

支援会員の期限は、入会いただいた当該年度から次の年度までを有効

受講料は1科目当たりの金額です。支払い方法は、指定口座への振り込みまたはクレジットカード決済から選べます。

授業開始から第2週以降に受講取消しをされた場合の受講料返金はいたしかねます。申込みの際に、受講内容や諸注意をよく確認ください。

東京キリスト教学園の卒業生には、TCI 同窓会より2万円の補助があります。（ただし、人数に限りあり）補助の支給については、受講料の通知の際に対象者にお知らせします。

9. 修了証（履修証明書または聴講証明書）

コース内の科目群から3科目を履修または聴講したのち、希望者には証明書を発行します。

履修証明プログラムの履修期間は原則として3年間です。

10. 本学(大学院含む)に正規入学後の単位認定

本プログラムで取得した単位は、本学(大学院含む)に正規入学した際、受講者の申請により、卒業(修了)に必要な単位数として算入することができます。

また、その受講料は入学後に奨学金として支給します。（ただし、単位を取得できた場合のみで、支給額は入学年度の授業料を超えない事とし、支給方法は学生納付金の授業料と相殺となります。）

なお、単位を取得する事を目指さない聴講については、本学(大学院含む)に正規入学しても、奨学金支給の対象とはなりません。

11. 問合せ先

東京基督教大学 教務部 「どこでもTCU」担当

〒270-1347 千葉県印西市内野 3-301-5-1

Email nondegree@tci.ac.jp

TEL 0476-46-1131

FAX 0476-46-1405



菊池 実

春 水曜-3限,4限

<授業の内容とねらい>

2021年度スタートした新規科目です。編入生（旧カリキュラム）には科目名は「旧約聖書概論Ⅰ」として提供されます。内容としては従来の旧約聖書概論Ⅰを踏襲しつつ、特に新約/キリストの福音との関わりの中で旧約聖書の姿をともに学びます。旧約聖書それ自身が一体的であること、また、旧約聖書と新約性聖書とが一体的であってこれをもって私たちが聖書としている、その事柄を大事な前提とします。主要な点は下記のとおりです。

1. 旧約聖書全体を概観します。概要と歴史的流れ、構成を把握します。
2. 旧約聖書全体を読む「視点」をつかむために、土台となる原語、写本や翻訳の歴史、気候と地理、暦と祭り、文化等を学びます。
3. 旧約聖書の中心的な神学・思想、神観、旧約時代の周辺の異教との違いにも触れて、生ける神が主導する救いの計画、「キリストと世界」（世界観）をとらえます。また、私たちが今日旧約聖書を読む方法とその神学的整理を試みます。
4. 旧約聖書全体の流れと背景をつかみ、概論Ⅱ（旧約聖書通論）への備えをします。概論Ⅱ（通論）で学ぶ各書を歴史の文脈に位置づけ、また新約聖書との関わり、有機的一体性の把握に努めます。

<授業テーマと内容>

- 第1週 旧約聖書（OT）の構成（イントロ、OT概要）
- 第2週 旧約聖書の構成（概史、区分、ヘブライ語聖書の構成）
- 第3週 旧約聖書と今日のキリスト者と
- 第4週 旧約聖書の構成（旧約聖書の歴史年表）
- 第5週 旧約聖書の構成（ヘブライ語の形態、特徴、翻訳、写本）
- 第6週 聖書の地の地理
- 第7週 聖書の地の気候、イスラエルの暦と祭りと新約聖書
- 第8週 旧約聖書の世界観（神観、OT時代の異教の神々、神の名）
- 第9週 旧約聖書の世界観（人間観）、旧約聖書と新約聖書をつなぐ神学（契約、贖罪）
- 第10週 旧約聖書と新約聖書をつなぐ神学（贖罪、神の性質）、そして「キリストと世界」

<到達目標>

聖書は極めて歴史的に記されている書です。本講では、①その流れの把握、②聖書全体の背景となる文化、言語、地理、一貫する思想（神学）についての把握、すなわち多角的な聖書への視点を持つことを受講者の到達目標とします。旧約聖書39巻個別の理解（主に概観Ⅱ）は、聖書全体の中に位置づけられる時に深まるものです。固有名詞も3Dの世界の中は生きたものとなります。その歴史と全体像があって旧約各書の学びは深まり、また新約との継続性が明確になるはずです。

<授業方法>

講義、実技、課題解決型学習（PBL）

<(*)教科書・参考書>

<成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %

期末レポート (Final Report) 80 %

その他 (Other) 10 %

- ・ 期末レポート（80%）→小試験、宿題、期末の総計の80%として評価します。
- ・ その他（10%）→本講では受講者全員がモーセ五書通読をします。

<準備学習等に必要な時間>

- ・ 教員作成の資料をPDF/WORDでTCUオンライン上にアップします。毎回その復習に時間を割き、また可能な限り予習を行ってください。教科書はありません。授業の集中と復習・予習が大事です。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

小テスト、期末試験ともにTAと担当教員が確認し評価を伝えます。

<その他履修上の注意点>

- ・ TA(Teaching Assistant)に大学院生が付きます。宿題や小テスト採点、グループ学修も担当しますので活用してください。本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

<教員の実務経験>

牧師としての20年間の実務経験から講義を提供しています。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「旧約聖書概論Ⅰ」と同じ内容です。



伊藤 明生

 DP1,DP2,,,,,
2 単位
 教研棟 1 F 中教室 3
 秋 水曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

神が天と地とそのうちのすべてのものを創造した当初、すべては「良かった」が、アダムとエバが神の戒めに逆らってエデンの園から追放された際に、被造世界全体が墮落した。キリストが十字架にかかってくださったのは、私たち罪人を罪から救い出すためだけでなく、墮落した被造世界を贖い出すためでもあった。キリストは私たち罪人の救い主であるだけでなく、私たちが生かされている被造世界を造り、今も生きてお働きになり、ご支配してくださっている方であり、墮落した被造世界を回復なさる方でもある。私たちは新約聖書を読んで学ぶことで、父なる神と御子なるキリストと聖霊なる神という三位一体の神や私たちがキリストにあって与えられている救いだけでなく、私たちが生かされている被造世界をよりよく知って理解することができる。本科目では、「そもそも新約聖書とはどのような書物なのか？」から始めてヨハネの福音書がどのような福音書に触れた上で、正義、愛、霊性、美、自由、真理、権力という七つの事柄をヨハネの福音書を中心に据えて見て行く。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 新約聖書とは？
- 第2週 福音書とは？ヨハネの福音書とは？
- 第3週 正義
- 第4週 愛
- 第5週 霊性
- 第6週 美
- 第7週 自由
- 第8週 真理
- 第9週 権力、力
- 第10週 キリストと世界

＜到達目標＞

基本的な新約聖書の読み方を習得して、世の中で生きて行く上で新約聖書を読みながら神学的な思索をしながら生きて行く初歩を習得する。現代世界の仕組みを常識的に理解しておくことは勿論のこと、キリスト者として聖書の知識と理解も常識として修得したい。

＜授業方法＞

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

＜(*)教科書・参考書＞

- 新改訳聖書 (2017版)
- N.T. Wright, Broken Signposts: How Christianity Makes Sense of the World, HarperOne, 2020
- 『クリスチャンであるとはN・T・ライトによるキリスト教入門』N.T.ライト著、上沼昌雄訳 (あめんど)
- 『福音の再発見』スコット・マクナイト著、中村佐知訳 (キリスト新聞社)
- Truth is stranger than it used to be: Biblical Faith in a Postmodern Age, J. Richard Middleton and Brian J. Walsh (SPCK)

＜成績評価の方法と基準＞

- 授業参加度 (Class Participation) 20 %
- リフレクション (Reflection Papers) 20 %
- 期末レポート (Final Report) 30 %
- 期末試験 (Final Exam) 30 %
- 毎回の授業後にリフレクションペーパーを提出すること (20%)。期末レポートでは、7つの項目のひとつについて詳細に論じること (30%)。期末試験では、どの程度、ヨハネの福音書ははじめ授業で取り扱ったことを理解したか問う (30%)。

＜準備学習等に必要時間＞

二コマ一回の授業のために1時間の予習と1時間の複数をを行うことが望ましい。

＜課題 (試験やレポート) に対するフィードバック＞

何らかのフィードバックを希望する場合には、個別にメールで問い合わせれば、対応いたします。

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「新約聖書概論Ⅰ」と同じ内容です。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

,DP2,DP3,,DP5,,,,
2 単位教研棟 1 F 中教室 4
秋 金曜-3限,4限

菊池 実

＜授業の内容とねらい＞

「キリストと世界」(旧約)/旧約聖書概論Ⅰでの学びを前提に、旧約各書を概観します。「キリストと世界」(旧約)/旧約聖書概論Ⅰでは特に旧約聖書全体の背景となる部分(歴史、文化、地理、言語、思想)に焦点を当てました。

概論Ⅱ/旧約通論では、概論Ⅰを土台に可能な限り各書の基本的な内容理解に努めます。各書を歴史と聖書全体の中に位置づけ、文学類型と解釈の前提となる視点を捉え、各書の主題を明確にし、主要な登場人物、出来事の把握、神学的ポイントの把握に努めます。そのうえで、各書に生き生きと語られるメッセージ、またその状況を超えて今日私たちに語る主の声を聞き、また新約聖書を含めた、聖書全体としての一体感を感じていきたいと思います。

概観/通論とはいえ、限られた時間で旧約聖書全体を授業のみでカバーすることは困難です。今後の学びの方法論や旧約聖書への関心としての学びの意味も持ってください。期末のレポートが大変重要な意味を持ちます。また、肝要なのは通読と、参考書当該箇所を読んで、各書のイメージを自分で持つことです。

＜授業テーマと内容＞

第1週 五書①(Ⅰの残り)、創世記、出エジプト記

第2週 五書②レビ、民数記、

第3週 五書③申命記、歴史書概観

第4週 歴史書①士師記、ルツ記、サムエル記

第5週 歴史書②サムエル記

第6週 歴史書③列王記、歴代誌

第7週 歴史書④エズラ、ネヘミヤ、エステル

第8週 聖文書①ヨブ記、詩篇、箴言、

第9週 聖文書②伝道者の書、雅歌

第10週 大預言書イザヤ、エレミヤ、哀歌、エゼキエル、

＜到達目標＞

「概論」/「通論」の名目のとおり、①旧約聖書各書のおおよその内容をつかみ、著名な人物や出来事を把握し、

②同時に、各書間の有機的なつながり、③新約聖書とのかかわりをしっかり感じてほしいと思います。

一つの書として大局的にとらえること、他方で各論的につかむこと、それらを目標とします。

＜授業方法＞

講義

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度(Class Participation) 10 %

期末レポート(Final Report) 70 %

その他(Other) 20 %

期末レポートが大きな位置を占めています。また、聖書通読を重視します(その他10%)。生涯に一度の旧約の集中的な学びの機会として教員・受講生もこれに真剣に臨みます。

＜準備学習等に必要な時間＞

聖書通読が準備学習として大きな意味を持ちます。

＜課題(試験やレポート)に対するフィードバック＞

小テストや期末試験についてはTAと担当教員が確認し評価やコメントを伝えます。

＜その他履修上の注意点＞

キリストと世界(旧約)/概論Ⅰ同様、配布するテキストに即してクラスを進めます。講義は、受講者が旧約聖書当該箇所を事前に読んでくることを前提とします。時間的制約があり、各書の扱いが浅薄になる中で、実際に聖書を読むことは本講座で一番重要なこととなります。今年度は本気でOT通読します。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「旧約聖書概論Ⅱ」と同じ内容です。



菊池 実

春 火曜-2限 金曜-2限

＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書の原典言語であるヘブライ語文法の習得を目標とします。ヘブライ語は独特の形の子音文字があり右から左に記す言語です。さらに母音記号と組み合わせる必要があります。形態的には単純な言語ながら慣れに時間を要します。スタートに乗り遅れないことが大切です。

クラスはアルファベットから始まり、基礎文法を学ぶと同時に、ヘブライ語聖書の語例と文例を通して、ヘブライ語に慣れていきます。履修者は、各課ごとの新しい単語と各品詞における活用を記憶するだけでなく、その積み重ねと応用の力を養っていく必要があります。聖書原語への期待や喜びは一つ一つの忍耐を伴う積み重ねの結果得られるものです。

テキストは日本語で記された文法書を用います。分かりやすさがある反面、情報の整理が求められます。優先する基本を見落とさないようにしましょう。

クラスの進捗は無理はしません。ただ、意欲を持って学ぶ人たちのためにも、クラス全体一人一人の努力が求められます。ヘブライ語ⅡとⅢは、Ⅰの継続となります。評価、進め方はⅠと同様です。1年を終える時には馴染みのある旧約聖書の多くの聖書箇所をヘブライ語で読むことができるようになります。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 インTRODクッション、第1課 文字
- 第2週 第1課 母音記号、読み、シェヴァ、ダゲシュ
- 第3週 第2課 音節とアクセント
- 第4週 第3－5課 冠詞、代名詞、疑問詞
- 第5週 第3－5課 冠詞、代名詞、疑問詞
- 第6週 第6課 前置詞と接続詞
- 第7週 第6課 前置詞と接続詞
- 第8週 第7課 名詞
- 第9週 第7課 名詞
- 第10週 第8課 形容詞

＜到達目標＞

- ①日々目標として、毎回の文法事項を理解する。次の課へ進む時はすでに学んだ原則を応用できるようになること。
- ②各課の目標として、聖書に用いられた言語としての文法的意味を語感とともに感じる。
- ③ヘブライ語の語感に慣れ、原典において感じ取る言葉の感覚の幸いを得ること。

＜授業方法＞

講義, 実技, 課題解決型学習 (PBL)

＜(*)教科書・参考書＞

* 聖書ヘブライ語、谷川政美監修、サンパウロ

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 30 %

小テスト (Quizzes) 70 %

日々の着実な学習が期待されています。各課終了毎に小テストを行います。小テスト（期末試験含む）は、テキストから出題されます。オンライン（ハイブリッド含む）授業の期間中は基本的に自宅で取り組む持ち帰りテスト（参照可）のテストです。各回の小テスト配分は70%と大きくなっていますので大事に考えてください。また、出席20回がそのまま20%に反映され、欠席・遅刻・早退はそこから差し引かれます。また、積極的な参加を求めます（10%）。語学は極力向き合って表情、発音の口元が分かるようにして学ぶことが大切です。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回クラスで熱かった内容を当日中に復習し、次の授業までに習得するようなコツコツと学ぶ姿勢が極めて重要です。友達とグループで学ぶことを推奨します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

各回の小テスト、持ち帰り試験についてはTAが細かく採点し、担当教員が確認してフォローします。

＜その他履修上の注意点＞

毎回の積み重ねと真剣な取り組みがなければただの苦痛なクラスにしかありません。しかししっかりと取り組むならば喜びや発見や聖書そのものへの関心は深まります。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「ヘブライ語Ⅰ」と同じ内容です。

DP1,,DP3,,DP5,,,,
2 単位教研棟 1 F 中教室 6
秋 火曜-2限 金曜-2限

菊池 実

＜授業の内容とねらい＞

ヘブライ語Ⅰの続きとして内容を深めていきます。本格的な文法の学修となりますので、夏休みの過ごし方が大変大きな意味を持ちます。単語帳を作り、音読しつつ反復してその感覚を深めましょう。コツコツと忍耐を持って積み重ねることが引き続き大切です。各品詞の特徴と用法を十分つかみつつ、ヘブライ語固有（セム語）の人称接尾辞を徹底して身につけ、また「動的言語」と言われるヘブライ語の動詞の変化や伝達の方法を身に着けます。それらの把握そのものが、神がこの言語を用いた理由の理解や、聖書の読み方に直結することとなります。今後の大学院での学び、牧会者としての説き明かしに向けて、また、ヘブライ語そのものを喜びとするために2学期は最も大事な毎回20回のセッションとなります。古代のイスラエルにおける日常の言葉であったことも意識しましょう。ギリシア語に比べても読みづらさや発音の違いはあります。しかし日常の言葉としてあの信仰者たちが話し、祈り、賛美した時のオリジナルの言葉であると感じるならば、日常の言葉としての安堵、また私たちにも必ず届く言語である感覚も感じられて、聖書がより身近なものともなります。

＜授業テーマと内容＞＜到達目標＞

- ①日々目標として、毎回の文法事項を理解する。次の課へ進む時はすでに学んだ原則を応用できるようになること。
- ②各課の目標として、聖書に用いられた言語としての文法的意味を語感とともに感じる。
- ③ヘブライ語の語感に慣れ、原典において感じ取る言葉の感覚の幸いを得ること。

＜授業方法＞＜(*)教科書・参考書＞＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 30 %

小テスト (Quizzes) 70 %

小試験が多くなります。必ず提出するように努めましょう。仲間を持つことがとても大切です。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回のその日のうちの復習が肝要です。仲間とともに学び合い反復することが学び方として最善です。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

毎回TAがフィードバックをし、教員も確認します。

＜その他履修上の注意点＞

欠席をしてしまうとあっという間に遅れてしまいます。ZOOMの録画を視聴することも含めて20回のクラスを自分で確保しましょう。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「ヘブライ語Ⅱ」と同じ内容です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

DP1,,DP3,,DP5,,,,
2 単位

教研棟 1 F 中教室 6
 冬 火曜-2限 金曜-2限

菊池 実

＜授業の内容とねらい＞

ヘブライ語文法のいよいよ全体像に迫る仕上げの学びとなります。特に動詞における7つの語幹、各語根の把握、春秋と積み重ねてきた各品詞と単語数がこの学びの成否を決めることとなります。徹底して声に出して反復し、文字を実際に書き、仲間と文法の内容を学び確かめ合い、またマソラの本文そのものを親しみを抱いている箇所から読んでいくことが喜びと実際の深まりに秘訣となります。暗唱聖句をし、またヘブライ語のフォークソング、現代ヘブライ語にも触れます。ヘブライ語3を終えるときにそれぞれがこの言語によって記された聖書理解の深まりを持ち、感動を得て次の学びに繋がるように積み重ねをしましょう。そのためにもこの学びのための仲間を持つことと、TAを十分に活用してください。また教員に対して積極的に質問を向ける姿勢を持ってください。進捗を優先しなければならず、受講生に読んでもらうことや練習問題をしてもらうことは多くありませんが、その分是非積極的な参加をしてください。

＜授業テーマと内容＞

＜到達目標＞

初級文法の仕上げとして基本的な単語、構造、人称変化、シンタックス、語感を覚えます。また、ヘブライ語聖書本文の暗唱をし、この言語を体で覚えて、日本語訳の背後にある伝達の間を感得することを目標とします。そして次の釈義講読に繋がる学びとすることを目標とします。

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 30 %

小テスト (Quizzes) 70 %

小テストは各回満点となる母数が異なり、規模が違います。個々に忠実に取り組んでください。総督点数の70%が配点となりますが、それに大きく30%の参加の姿勢が求められます（評価します）。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎回の積み重ねがいよいよ大事になります。寒い季節にどうか暑く仲間と学びあってください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

これまでと同様、TAと担任の教員が毎回の課題にリプライします。

＜その他履修上の注意点＞

試験の提出期限に遅れることがあっても必ず取り組んで提出してください。出席もまた非常に重要です。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「ヘブライ語Ⅲ」と同じ内容です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

DP1, DP2, ……
2 単位教研棟 1 F 中教室 4
春 金曜-3限, 4限

岡村 直樹

＜授業の内容とねらい＞

このクラスでは16世紀の宗教改革に基づくプロテスタント神学の概要と意味を学びます。現代福音主義の立場から、神の一般啓示及び特別啓示、聖書の権威、靈感、無誤性、無謬性、外的及び内的証明等について学びつつ、加えて19世紀以降の新しい神学の流れに注目し、現代のキリスト教会と神学に影響を及ぼした主な神学者の啓示論、聖書論をサーベイとして学びます。「主な宗教改革者達は、聖書の靈感についてどのように教えていたか。」「神の靈感は、聖書に具体的にどのように働いているのか。」「聖書は誤りの無い神の言葉とは、具体的にはどういうことか。」「新旧約聖書66巻はどのようにして決まったのか。」「聖書を権威ある神の言葉とすることは、キリスト教会や個人の信仰にとってどのような意味を持つのか。」「聖書の原本と翻訳本にはどのような違いがあるのか。」「19世紀から始まる聖書批判の背景には何があり、またそれは今日のキリスト教会にどのような影響を及ぼしているか。」といった質問について考察します。このクラスでは、筆記課題や小グループ・ディスカッション等を通して、聖書信仰の大切さを他者に伝える力、また共に働く力を養います。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 「神学とは？神学部とは？」
- 第2週 「神学の必要性とあるべき姿」
- 第3週 「教会史と聖書の靈感」
- 第4週 「聖書の内的証明と外的証明」
- 第5週 「聖書の靈感」
- 第6週 「一般啓示と特別啓示」
- 第7週 「聖書の正典性と無誤性」
- 第8週 「近現代神学の潮流と聖書観」
- 第9週 「まとめ授業」
- 第10週 「最終試験」

＜到達目標＞

- 1) 神学を組織的に学ぶことの必要性をわかりやすく他者に伝えることができるようになること。
- 2) 福音主義の立場から、聖書靈感、無誤性、聖典性をわかりやすく他者に伝えることができるようになること。
- 3) 聖書の大切さを、わかりやすく他者に伝えることができるようになること。
- 4) 自らの教会生活や信仰生活の意味について、わかりやすく他者に伝えることができるようになること。

＜授業方法＞

講義, 実技, 実習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

＜(*)教科書・参考書＞

* 日常の神学、岡村直樹、いのちのことば社、2023年
キリスト教神学（第1巻）、ミラード・J・エリクソン、いのちのことば社、2003。

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 10 %
リフレクション (Reflection Papers) 40 %
期末試験 (Final Exam) 50 %
リフレクションペーパーは、決められた教科書の箇所の内容に対して書いていただきます。授業内のスモールグループで発表し、相互に評価します。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リアクションペーパーは、授業内のスモールグループにおいて発表し、相互に評価します。

＜その他履修上の注意点＞

- ・このクラスは総合神学科の必修科目です。
- ・この科目は、私の牧師（米国カリフォルニア州、ウインターズバーク長老教会）としての実務経験を活かして提供します。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。
本科目は、旧カリキュラムの「組織神学Ⅰ(総論・啓示論)」と同じ内容です。



山口 陽一

秋 水曜-5限,6限

<授業の内容とねらい>

キリシタン史を前史として明治期以降のプロテスタント史を中心に概観します。景教伝来の可能性や明治以降のカトリック、ハリストス正教会にも目を配り講義を行います。キリシタン史は日本の宗教政策や日本人性を理解するためにも重要であるのでしっかりと扱います。これは近代のプロテスタント史を理解する上でも不可欠です。プロテスタント史においては、近現代のキリスト教史における「教会と国家」の課題を日本における特殊性をふまえて考察し、今日的課題をも探ります。キリスト教と文化・社会との係わり、具体的には聖書翻訳や讃美歌、文学、戦争、社会事業などにも言及しますが、主には日本における宣教や教会形成について扱います。日本のキリスト教史全体をとらえることをめざしますが、特に東京基督教大学と関係の深い福音派教会の特質についての理解を深めることを意識します。専門用語が多く、史料紹介も行なうため、日本語および日本史の知識が前提として必要とされます。

<授業テーマと内容>

- 第1週 日本キリスト教史の視点、時代区分と文献紹介、景教伝来の可能性
- 第2週 キリシタンの世紀、布教の進展とキリシタンの教理
- 第3週 キリシタン禁制史、殉教と鎖国体制
- 第4週 プロテスタント宣教師と幕末明治の日本
- 第5週 プロテスタント受容の特質、横浜、熊本、札幌、静岡、松江
- 第6週 明治期の伝道の諸相、受容の特質
- 第7週「日本」とのキリスト教の衝突、戦争と教会
- 第8週 大正期のプロテスタントの「成長」、朝鮮のリバイバルとの比較
- 第9週 戦時下の教会の苦悩、神社参拝・教会の罪責
- 第10週 戦争責任の自覚、戦後プロテスタントの展開

<到達目標>

教会教職・信徒奉仕者を志す人には日本における教会形成の課題の理解、クリスチャンとして日本に生きる意味を考えることを期待します。留学生には、日本と日本の教会文化を理解することを期待します。日本キリスト教史研究への関心、歴史的意識を持つことを願うのみならず、卒業論文につながるテーマとの出会いも期待します。

<授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 討議 (ディベート), 反転授業 (事前学習前提)

<(*)教科書・参考書>

- 中村 敏『日本キリスト教宣教師一ザビエル以前から今日まで』いのちのことば社
- 大村晴雄『日本プロテスタント小史』いのちのことば社
- 中村 敏『日本における福音派の歴史』いのちのことば社
- 鈴木範久『日本キリスト教史 年表で読む』教文館
- 五野井隆史『日本キリシタン史の研究』吉川弘文館
- 『日本キリスト教歴史大事典』教文館
- 『日本キリスト教歴史人名事典』教文館

<成績評価の方法と基準>

- 授業参加度 (Class Participation) 10 %
 - リフレクション (Reflection Papers) 20 %
 - 課題 (Assignments) 20 %
 - 期末レポート (Final Report) 50 %
- レジュメの指定ページを読み、毎回、講義の感想・質問を書いてもらい、次回それに応答する時間を持ちます。欠席はもとより遅刻・早退についても連絡を怠らないことを含め平常点とします (30%)。中間レポートはブックレポートです。期末レポートは、各自がテーマを自由に設定します。教科書と講義の範囲内で、テーマを絞り込み、引用文献を用い、A4の用紙に4000~6000字で書いてもらいます (50%)。

<準備学習等に必要な時間>

講義は2時間 (20分は質疑応答形式) を目安に行ないます。毎回3時間程度の事前学習をしてください。期末のレポートには相当の時間が必要です。

<課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

リフレクション、レポートに対してコメントします。

<その他履修上の注意点>

日本史の知識が不十分な人は、その点での事前学習を行なってください。
本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「日本キリスト教史」と同じ内容です。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

DP1,,DP3,,DP5,,,,
2 単位教研棟 1 F 中教室 4
冬 火曜-3限,4限

齋藤 五十三

＜授業の内容とねらい＞

救済論はキリスト・イエスにより完成された「贖罪の業」を基盤として、永遠の聖定に基づく救いがどのように人・教会に適用されるかを学びます。救済の秩序（Ordo salutis）における聖霊の働きを理解し、救済論を聖霊の業として把握することを目指します。聖霊論との関わりも深いため、救済論は聖霊論とも呼べる内容となっています。教会論は、聖霊の働きにより神の子どもとされた者たちが、神の家族という共同体に集められたことの意味と目的を問う学びです。具体的な内容としては、教会の本質を問う「教会のしるし論」、教会におけるキリストの王権を形にするための「教会政治」、聖霊の恵みを受ける「手段」としての「礼典論」がその主な内容となります。終末論は、集められた神の民としての教会が神の国の完成を迎える「終わりのとき」に起こる事柄を扱う学びです。具体的には個人の死と復活までの中間状態を扱う「個人的終末論」と、キリストの再臨を中心として世界が終わりを迎える「一般的終末論」が主な内容となります。

＜授業テーマと内容＞

第1週 贖罪論、救済論概要
第2週 召命、新生、信仰、回心
第3週 信仰義認
第4週 神の子どもとしての聖化
第5週 救いの確かさ、教会論概要
第6週 教会のしるし、教会政治
第7週 礼典論（洗礼、聖餐）
第8週 終末論概要
第9週 個人的終末論
第10週 一般的終末論

＜到達目標＞

二つの目標があります。まず最初に「救済」、「教会」、「終末」理解についてそれぞれ、適切な聖書の根拠を把握しながら理解することが第一の目標です。第二の目標としては、理解したことを自らの言葉をもって証しし、語れるようにすることです。

＜授業方法＞

講義, 演習, 実技, 実習, 課題解決型学習（PBL）

＜(*)教科書・参考書＞

* ハイデルベルク信仰問答
* ニューシティカテキズム（CBI出版）*教員による配付

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 20 %
リフレクション (Reflection Papers) 30 %
期末試験 (Final Exam) 50 %

授業参加度は毎回授業後に提出を求める授業ノートによってポイントをつけます。リフレクションは、毎回の事前課題です。これらを毎回期限通りに提出すれば、それなりの成績が残りますので忘れないように気を付けてください。

＜準備学習等に必要な時間＞

前回授業の復習、事前課題（リフレクション）のため、毎週280分を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

事前課題、復習課題、プレゼンテーション、期末試験それぞれにフィードバックがあります。

＜その他履修上の注意点＞

毎回、ハイデルベルク信仰問答、ニューシティカテキズムの指定箇所を精読して課題を準備してください。
本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「組織神学 3 (救済論・教会論・終末論)」と同じ内容です。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



<授業の内容とねらい>

キリスト教教育とはなんなのでしょうか。ある人はキリスト教にとって重要な教義や伝統を伝えることがキリスト教教育であると言えます。しかしもしそうであるなら、教義や伝統を学びたい人がそれらについて書かれた本を図書館で借りて読めば教育は終了となります。キリスト教教育の専門家のロバート・パズミーニョ氏は、キリスト教教育について次のように述べています。「教育とは日々の生活の場面や霊的な場面において、その人の知識、信条、価値、態度、感情、スキル、行動が変化するプロセスである。」つまりキリスト教にとって重要な教義や伝統はそれを知り記憶するだけではなく、その人の中に重大な変化となって現れてはじめてそれが教育となるのです。

キリスト教教育Ⅰではこれらのことを念頭に置きつつ、旧・新約聖書時代から近現代までのキリスト教教育の歴史を振り返ります。またキリスト教教育と教育心理学との関連性を考慮しつつ、自己評価と他者評価、発達や動機付けなどのトピックについての理解を深めます。そしてユダヤ人の教育方法であるハブルータを用いて、現代キリスト教教育が抱えている課題と教会教育について議論を行います。

<授業テーマと内容>

- 第1週 キリスト教教育の聖書的基盤
- 第2週 キリスト教教育の歴史と背景
- 第3週 キリスト教教育と神学
- 第4週 キリスト教教育と発達
- 第5週 キリスト教教育の自己と他者評価&動機付け
- 第6週 <特講>アクティブラーニングとは？
- 第7週 ハブルータを用いた神学教育の実践（1）
- 第8週 ハブルータを用いた神学教育の実践（2）
- 第9週 現代社会とキリスト教教育の課題
- 第10週 期末試験

<到達目標>

- ① 聖書に基づくキリスト教教育のあり方を実践できるようになること。
- ② 教育対象者の年齢や教育のコンテキストに相応しい教育方法を把握することができるようになること。
- ③ 教育心理学のアプローチを、キリスト教教育の実践において用いることができるようになること。

<授業方法>

講義, 実習

<(*)教科書・参考書>

- * 「日常の神学—いまさら聞けないあのこと、このこと」岡村直樹著、いのちのことば社、2023年
- 「楽しく学べる教育心理学」桜井茂男著、図書文化社、2017年
- "Teaching from the Heart." Mary Elizabeth Mullino Moore, Trinity Press International, 1998

<成績評価の方法と基準>

リフレクション (Reflection Papers) 30 %

発表 (Presentations) 30 %

期末試験 (Final Exam) 40 %

・リフレクション：授業に関するリアクションペーパーを7回提出します。

・発表：ハブルータを用いた神学教育の実践の議論と発表（2回）

*出欠席に関するポリシー：無断欠席は1回につき、最終の100点満点の素点から10ポイントが引かれます。

<準備学習等に必要な時間>

クラスの復習や課題のために用いる毎週の学習時間は、クラス時間の約2倍を目安としています。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

<その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

本科目は、ユースミニストリー副専攻（神学科・国福科カリキュラム）の必須科目です。

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「PED201」キリスト教教育Ⅰと同じ内容です。

,,DP3,DP4,DP5,,,,
2 単位教研棟 1 F 中教室 4
秋 木曜-1限,2限

岡村 直樹

<授業の内容とねらい>

「ユースミニストリーの神学と実践」は、福音的な神学、福音的な聖書理解の基礎に立ちつつ、教育学、心理学、社会学、牧会学等の多様な側面から、現代のユース（主に中・高生）と彼らへのミニストリーについて考えるクラスです。学生は、まず「ユース」と「ミニストリー」というそれぞれの言葉の意味について学習し、対象者が誰であるか、そして具体的にどのような働きなのかを知るところから学びを始めます。聖書に書かれたユースミニストリーに関する記述を調べ、ユースミニストリーの研究が盛んな米国での取り組みについて学び、更にユースミニストリーに関わる者がどのような心構えとトレーニングを必要とするのかについて考察します。学期の中盤では、ユースミニストリーの現場で働く先生から直接話を聞き、またユース教育に有効的なナラティブ・メソッドの用法を学びます。学期最後には、具体的なミニストリーの取り組みのアイディアに関する学生によるクラス発表から、相互評価を通して学び、既成の概念にとらわれないユニークなユースミニストリーへのアプローチを共に模索します。

<授業テーマと内容>

- 第1週 ユースミニストリーの神学と聖書
- 第2週 教会とミニストリーの方針
- 第3週 思春期の心理
- 第4週 ユースミニストリーとリーダーシップ
- 第5週 ユースミニストリーの新しい展開
- 第6週 ユースを対象としたキャンプミニストリー
- 第7週 ユースを対象とした教会教育
- 第8週 ユースとのコミュニケーション
- 第9週 ユースミニストリーの実践①
- 第10週 ユースミニストリーの実践②

<到達目標>

- ① 聖書に記された「ミニストリー」の概念を理解し、それに基づいたユースミニストリーを展開する力を養うこと。
- ② ユース期の心の様子を理解し、実践的に当てはめて考察できるようになること。
- ③ ユースにとってわかりやすいメッセージを語れるようになること。

<授業方法>

講義, 演習, 実技, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

<(*)教科書・参考書>

<成績評価の方法と基準>

リフレクション (Reflection Papers) 10 %
課題 (Assignments) 30 %
発表 (Presentations) 30 %
期末レポート (Final Report) 30 %
すべての課題は、授業時に相互発表されます。

<準備学習等に必要な時間>

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

授業時の相互発表を通して、クラスメートや教員からのフィードバックを受けます。

<その他履修上の注意点>

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「ユースミニストリーの神学と実践」と同じ内容です。

本科目は、ユース・スタディーズ副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

<教員の実務経験>

この科目は、私の牧師（米国カリフォルニア州、ウインターズバーク長老教会）としての実務経験を活かして提供します。



岡村 直樹

徐 有珍

,,DP3,DP4,,,,,
2 単位教研棟 1 F 中教室 4
冬 木曜-1限,2限

＜授業の内容とねらい＞

同年代のユース同士の関係性が、思春期において非常に重要な役割を果たす事は、社会学や心理学分野の研究を通して周知の事実となっているが、多くの場合社会は、その関係性をネガティブなものとする傾向がある事を否めない。アルコールアブユーズ、校内暴力問題、不純異性交遊、ゲーム依存といった問題は、思春期文化の悪影響であると考えられてしまうようである。しかし近年多くの研究者による、同年代の若者同士の関係性や思春期文化がユースに与えるポジティブな影響についての言及が増加しつつある。このクラスでは、ユースの精神的成長、社会的成長、そして霊的成長に焦点を当てつつ、教会やその他のクリスチャングループがユースに対してどのようなアプローチをするべきかを考える。このクラスではさらに、インタビューを中心としたユースに対する質的研究を通して、実際にユースから学ぶ。ユースとのラポール形成を目指し、将来のユースミニストリーへ備える取り組みを行う。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 思春期の心理的発達#1
- 第2週 思春期の心理的発達#2
- 第3週 「包帯クラブ」
- 第4週 非言語コミュニケーション
- 第5週 思春期の文化#1
- 第6週 思春期の文化#2
- 第7週 人間関係のダイナミクス#1
- 第8週 人間関係のダイナミクス#2
- 第9週 若者とキリスト教世界観
- 第10週 教会とワーシップ

＜到達目標＞

- 1) 思春期文化の様々な影響（ポジティブとネガティブ）について説明できるようになること。
- 2) クリスチャンユースを対象者とする質的研究の方法を会得すること。
- 3) クリスチャンユースを対象者とする質的研究を実施し、その結果についてクラスで話し合うこと。

＜授業方法＞

講義, 演習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション (Reflection Papers) 20 %
課題 (Assignments) 30 %
発表 (Presentations) 20 %
期末レポート (Final Report) 30 %
すべての課題は、授業時の相互発表の対象となります。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約 1.5 倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は 140 分ですので、クラス外で毎週約 210 分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

授業時の相互発表を通して、クラスメートや教員からのフィードバックを受けます。

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、ユースミニストリー副専攻（神学科・国福科カリキュラム）の対象科目です。本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「思春期の文化と伝道」と同じ内容です。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岡村 直樹

徐 有珍

,,,DP4,DP5,,,,
2 単位

教研棟 1 F 中教室 4

秋 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

このクラスでは、キリスト教の世界観、特に福音的な聖書観に立脚しつつ、神の創造された人間の心について共に学びます。心理学 I では、まず心理学という学問の歴史（ヴィルヘルム・ヴント、イヴァン・パブロフ、ジグムント・フロイト、カール・ユング等）およびその全体像（行動心理学、認知心理学、生理心理学、神経心理学、社会心理学、臨床心理学、教育心理学等）を概観します。その上で、人間の心がどのように成長し、どのように変化していくのかについて、「発達心理学」の視点から学びます。ジャン・ピアジェ、エリク・エリクソン、ローレンス・コールバーグ、キャロル・ギリガンらの発達論を学びつつ、人間としての発達と、キリスト者としての発達を並行的に考察します。また特に思春期の発達に注目しつつ、成長過程で生じる「同一性 (identity)」「同一性の拡散 (identity diffusion)」「反抗期 (rebellious phase)」「同輩圧力 (peer pressure)」といった重要な概念を確認しつつ、ユースミニストーリーへの適応について共に考えます。また堀越勝著の「感情のみかた」を読みつつ、自己理解を深めます。

＜授業テーマと内容＞

第1週 心理学とは何か？（理論的アプローチ）

第2週 心理学とは何か？（歴史的アプローチ）

第3週 情動と行動（1）

第4週 情動と行動（2）

第5週 感覚と知覚（1）

第6週 感覚と知覚（2）

第7週 パーソナリティ（1）

第8週 パーソナリティ（2）

第9週 学習と記憶（1）

第10週 学習と記憶（2）

＜到達目標＞

- ① 講義される心理学のトピックの理解。
- ② 心理学の用語の定義付けができるようになること。
- ③ 広範囲で複雑になりがちな心理学の用語や概念の理解が困難な箇所を把握し、適切に教員に質問できるようになること。
- ④ 各自の理解した事柄を正確な文章で課題において表現できるようになること。

＜授業方法＞

講義, 実技, 実習, グループ学習（ワーク・ディスカッション）

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション (Reflection Papers) 40 %

発表 (Presentations) 25 %

期末試験 (Final Exam) 35 %

- ・感情のみかた」のリフレクションペーパー提出が、成績の40%となります。
- ・発表はグループ発表となります。
- ・期末試験は第10回目のクラス時に実施します。

＜準備学習等に必要な時間＞

授業前には講義内容に関連する章を読んで下さい。各ダイアッドレポートを仕上げるためには大抵の学生は1－2時間を要します。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

リフレクションペーパーは、授業内のスモールグループにおいて発表し、相互に評価します。

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、ユース・スタディーズ副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

本科目は、社会福祉主事養成科目です。

＜教員の実務経験＞

この科目は、教員（岡村）の牧師（米国カリフォルニア州、日系長老教会）としての実務経験を活かして提供します。

本科目は、旧カリキュラムの「心理学 I」と同じ内容です。



岡村 直樹

徐 有珍

,,,DP4,DP5,,,,
2 単位
教研棟 1 F 中教室 4
冬 水曜-5限,6限

<授業の内容とねらい>

このクラスでは、キリスト教の世界観、特に福音的な聖書観に立脚しつつ、神の創造された人間の心について共に学びます。心理学Ⅰでは、心理学の全体像を概観しつつ、主に発達心理学を学びの中心としました。心理学Ⅱでは、臨床心理学を中心に学びます。臨床心理学は、精神障害や心理的な問題、不適応行動などの援助や回復、予防またはその研究を目的とする心理学のひとつの分野です。単にここに問題を抱える人に働きかけるだけでなく、精神的健康を保持、増進、または教育するといった予防も目的のひとつとなっています。臨床的な心のケアを考える上で、避けられるべきことは、私たちが勝手に、自分の尺度で、他者の心の動きを「健康だ」「不健康だ」と決めつけることです。良くないと感じてしまう他者の「問題行動」でさえも、その人にとってみれば、重要な意味を持つことも少なくありません。大切なのは、考え方や行動を「とにかくやめさせる」ことではなく、その意味をしっかりと理解した上で、対処の方法を考えることです。このクラスでは、心理学Ⅰに引き続き、堀越勝著の「感情のみかた」を読みつつ、特に重要他者とのコミュニケーション力をつけていきます。

<授業テーマと内容>

第1週 心理学Ⅰの復習と臨床心理学の基礎

第2週 映画「なんだかおかしい物語」

第3週 こころの問題と教会

第4週 うつ、双極性障害

第5週 統合失調症

第6週 発達障害

第7週 虐待、ひきこもり

第8週 摂食障害、依存症、LGBT

第9週 高齢者の心理

第10週 期末試験

<到達目標>

- ① キリスト教会が心の病を持つ人にどうよりそうべきかについて明確な意見を持てるようになること。
- ② 臨床心理学の基礎知識を身につけること。
- ③ 学生が、自らの「感情」の様子や動きに敏感になり、それを受け入れることができるようになること。

<授業方法>

講義, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

<(*)教科書・参考書>

<成績評価の方法と基準>

リフレクション (Reflection Papers) 40 %

課題 (Assignments) 10 %

期末試験 (Final Exam) 50 %

すべての課題は、授業時の相互発表の対象となります。

<準備学習等に必要な時間>

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

授業時の相互発表を通して、クラスメートや教員からのフィードバックを受けます。

<その他履修上の注意点>

本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「心理学Ⅱ」と同じ内容です。

このクラスはユースミニストリー副専攻の必修科目です。

本科目は、ユース・スタディーズ副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。

本科目は、社会福祉主事養成科目です。

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



<授業の内容とねらい>

核戦争、環境破壊、人権侵害、難民、格差、貧困など、人間が生きる上での尊厳を脅かす諸問題は、国土・国家という枠組みを越えて、日本に生きる私たち一人一人の人生に影響を与えています。このような時代背景にあって、自分（自国）対他者（他国）といった見方を超えて、相互に影響し合う「関係性」を包括的に捉える視点が不可欠です。国家間の対立・戦争を避け、平和構築への知恵を得るために、国家間がどうあるべきかを分析する学問である「国際関係論」は、激変する世界情勢の影響を受けて、その国家を構成する「人間」の安全保障や権利といった普遍的なテーマも扱うようになってきました。今や「国際」ではなく「グローバル」という言葉が定着したこの時代において、既成の概念・学問の枠組みを越え、人類共通のテーマに対して、一人のキリスト者として幅広い視点を養うことがこの授業のねらいです。今年度のグローバル・スタディーズ入門は、この国際関係論の視点からグローバルな課題について検討して行きます。

<授業テーマと内容>

- 第1週 国際関係論を学ぶ意義、授業計画の説明、国際政治の倫理、グローバル化する世界
- 第2週 「主権国家体制と平和①」 国家（理論）、戦争（歴史、原因、歴史観）、内戦（事例、要因）
- 第3週 「主権国家体制と平和②」 構造的暴力、平和、国家安全保障（ジレンマと逆説）
- 第4週 「非国家主体の役割①」 集団安全保障、国際連合、国連平和維持活動
- 第5週 「非国家主体の役割②」 地域統合（欧州、アジア太平洋）、脱国家主体、国際テロリズム
- 第6週 「政治と経済①」 貿易、金融、国際移民
- 第7週 「政治と経済②」 貧困、開発と援助
- 第8週 「環境と科学技術」 科学技術、大量破壊兵器拡散、核軍縮・軍備管理
- 第9週 「規範とアイデンティティ①」 文化と文明、人権、人道的介入、破綻国家の再建
- 第10週 「規範とアイデンティティ②」 紛争後の平和構築、民主主義と民主化、ジェンダー

<到達目標>

- 1.国際関係における「人間の視点」を磨く： 一国（国家）の利益や安全保障だけではなく、一人の人間の生命と安全のために必要な「公共的な」考え方・視点を習得する。
- 2.国際関係における「歴史の視点」を磨く： 現代の世界のシステムに至るまでの植民地支配・独立などの歴史的経緯を学び、世界的な経済格差を生み出した背景・影響力を問う力を養う。
- 3.国際関係における「平和の視点」を磨く： 国家同士が軍事・経済・政治力で互いに牽制しあい、自らの利益を保持する「パワーポリティクス」の国際関係の中で、戦争とその犠牲を減らし、平和構築の在り方を検証・分析する力を養う。

<授業方法>

講義、発表(プレゼンテーション)、反転授業（事前学習前提）

<(*)教科書・参考書>

* 小田桐確、長谷川晋、岸野浩一『ワークブック国際関係論 身近な視点から世界を学ぶ』ナカニシヤ出版、2018年
栗林輝夫編『「講座」現代キリスト教倫理〈4〉世界に生きる』日本基督教団出版局、1999年

<成績評価の方法と基準>

- 課題 (Assignments) 40 %
- 中間レポート/試験 (Midtem Report/Exam) 15 %
- 発表 (Presentations) 15 %
- 期末レポート (Final Report) 30 %

毎回の授業で学生に期待することは、教科書の内容を批判的に分析した上で、自分なりの意見・質問を持ち寄り、それをもって授業内ディスカッションの活性化に貢献することです（成績評価の40%）。授業で扱うテーマやコンセプトを他の具体的な事例を用いて説明できるか、理解したことを創造的に応用できているか等も考慮しながら授業に臨んでください。

<準備学習等に必要な時間>

事前配付資料や教科書の内容のみならず、扱うテーマに関連した情報を独自にインターネット上でリサーチすることも求められます。そのため、最低でも授業時間の2倍（約280分）かそれ以上の時間を確保し、授業に備えられるよう心がけてください。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

毎回の授業後のリフレクションペーパーに対してフィードバックをする場合があるので、採点の通知があった際には必ずTCUオンラインで確認してください。

<その他履修上の注意点>

- ・この授業では、グループディスカッションの時には、パソコンやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使用しないで授業を進めることがあります。これは、学生たちが自己表現やコミュニケーションを重視し、深く考える機会を提供するためです。授業ノートを取るためにパソコンやタブレットを使用することはできますが、それらのデバイス以外でメモを取るためのノートや紙、筆記用具を持参するようにしてください。授業中に必要な情報を取得するためにデジタルデバイスを使用する場合は、教員から適宜指示をします。その指示があった場合でも、授業の趣旨に沿った使用を心がけるようにしてください。
- ・本科目は、神学科・国福科カリキュラムの「国際関係論」と同じ内容です。
- ・本科目は、グローバル・スタディーズ副専攻（総合神学科カリキュラム）の対象科目です。



伊藤 明生

.....A,B,C,
2 単位
大学院棟 講義室C
春 水曜-5限,6限

＜授業の内容とねらい＞

生きることは解釈することである。聖書を解釈する前に人は、誰もが自らを、また人生を解釈している。自らを中心に位置付けた世界が私たち個々人が生きる世界に他ならない。私たちは無意識のうちに自らとの関係で物事や人を解釈して理解する。この無意識のうちに実行している解釈を意識することが重要な課題である。神のみことばは普遍的であると思いがちであるが、神のみことばを読んで解釈する私たち人間は有限で、時間と空間の制約のうちに生かされている。本科目では、聖書を解釈・理解するとは一体どういうことであるか、古代・中世・宗教改革から、シュライエルマッハー、ガダマー、リクール、カール・バルト、読者応答批評・受容理論、記号論・構造主義・ポスト構造主義、フェミニズム神学や解放の神学等の社会批評に至る近代及び近年の聖書解釈の方法論を、その背後にある哲学的、神学的な枠組みを踏まえて考察する。講義に重点を置きつつ、各自が思想家またはテーマを選び授業で研究発表したり、聖書解釈と関連付け考察を行う演習を行ったりする。ポストモダンの今、思想的哲学的考察を抜きに真の意味で聖書を読み、解釈して説き明かすことはできない。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 『それで君の声はどこにあるんだ？』：黒人神学の挑戦
- 第2週 神のみことばと人の言葉：テキストと意味：意味の意味と解釈
- 第3週 古代と中世の聖書解釈
- 第4週 宗教改革の聖書解釈：聖書の明晰性
- 第5週 シュライエルマッハーの聖書解釈
- 第6週 ハンス・ゲオルク・ガダマーの解釈学
- 第7週 ポール・リクールとカール・バルト
- 第8週 読者応答批評と受容理論
- 第9週 記号論・構造主義
- 第10週 ポスト構造主義の解釈学：ポストモダンの解釈学

上記の内容はあくまでも予定であって、学生諸君の希望に応じて変更することもあります。

＜到達目標＞

21世紀の日本に生きる私たちが二千年以上も前に書かれた聖書を読み、解釈して理解するには、様々な数多くの要素が微妙に複雑に絡み合うことを理解し、その上で聖書をより良く読み、解釈できるように、自らを整えて備えることを理解することを目指す。

＜授業方法＞

講義, グループ学習（ワーク・ディスカッション）, 発表（プレゼンテーション）

＜(*)教科書・参考書＞

- 伊藤明生 「聖書の解釈」『聖書神学事典』いのちのことば社, 2010年, 35～54頁。
- 『聖書読解術』榎原康夫 いのちのことば社, 1970年。
- Hermeneutics: An Introduction, Anthony C. Thiselton
- New Horizons in Hermeneutics: the theory and practice of transforming biblical reading, Anthony C. Thiselton
- 『文学とは何か』テリー・イーグルトン（大橋洋一訳）岩波書店, 1997年。
- * 『神のことばを解釈すること 神のことばを人の言語で読む』南野浩則（いのちのことば社）
- * 『それで君の声はどこにあるんだ？ 黒人神学から学んだこと』榎本空（岩波書店）
- 『誰にも言わないと言ったけれど（「黒人の炎」を受け継ぐために～黒人神学の泰斗、その人生の）』ジェームズ・H. コーン（新教出版社）
- 『十字架とリンチの木』ジェームズ・H. コーン（日本キリスト教団出版局）
- 『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』ジェームズ・H. コーン（日本基督教団出版局）

＜成績評価の方法と基準＞

- 授業参加度 (Class Participation) 10 %
 - リフレクション (Reflection Papers) 10 %
 - 期末レポート (Final Report) 40 %
 - 期末試験 (Final Exam) 40 %
- 解釈に関する理論、解釈学に関連する理論家の著書を一冊選んで取り組んで、授業でプレゼンして、レポートにまとめること（40%）。毎回の授業の終了後にリアクションペーパーを提出すること（10%）。期末試験では、本科目で学んだこと全体を十分に把握できたか確認します（40%）。「授業参加度」は、出席点ではないので、授業に参加・貢献した程度が加味されます（10%）。

＜準備学習等に必要な時間＞

一回の授業のために最低限4時間程度の読書の準備。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

フィードバックを希望する場合には、メールなどで対応しますので、遠慮しないでお尋ねくださいませ。

＜その他履修上の注意点＞

- ・ゼロからの学びではきついの、ぜひ予め、関心を抱いて読書しておいてください！
- 本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



伊藤 明生

,,,,,A,C,
2 単位
大学院棟 講義室A
秋 火曜-3限,4限

<授業の内容とねらい>

本科目は、パウロがまだ訪れたことがないコロサイの教会に書き送った手紙をひとつの例として取り扱って、他のパウロ書簡を読み解く糸口とする。コロサイの町は、パウロが手紙を書き送った、比較的直後に地震に被災して甚大な被害を蒙って、住民たちは避難して町は廃墟化したので、一世紀当時のコロサイの町を偲ぶことは難しいが、近年になってようやく考古学的な発掘も始められた。獄中書簡のひとつであるが、パウロの真筆か否か議論がある。パウロは、コロサイ教会を開拓したエパfrasと獄屋生活で一緒となり、コロサイの教会を荒廃させている間違った教えのことを聞かされて、コロサイ書で論敵たちの反駁を試みている。コロサイの異端の特定については様々な仮説が提案されているが、禁欲主義的な側面があり、しかも御使いを礼拝する面もあり、ひとつの異端集団に集約できるかが課題である。パウロの主要な議論は、キリスト論が中心となっている。キリストは見えない神の見える形で、自ら造り主でもあったので、墮落した被造世界も創造の当初、善かつ潔なるものであった！すべての知恵はキリストのうちにあり、すべての問題を解決する糸口はキリストに秘められている。

<授業テーマと内容>

第1週 イントロダクション：コロサイ人への手紙の緒論問題

第2週 1章前半

第3週 1章後半

第4週 2章前半

第5週 2章後半

第6週 3章前半

第7週 3章後半

第8週 4章前半

第9週 4章後半

第10週 総括：コロサイ人への手紙のまとめ

<到達目標>

新約聖書の中でもパウロ書簡、パウロ書簡の中でもコロサイ人への手紙を当時の時代背景、文化脈、思想の枠組みで読み解く際に、何をしなければならないか、何が必要か、どのようにするか取っ掛かりを修得すること。旧約聖書やユダヤ教的な背景だけではなく、時には、書によってはギリシア・ローマ的な背景も新約聖書を読み解く際には、重要であることを熟知すること。

<授業方法>

講義, 演習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション)

<(*)教科書・参考書>

Novum Testamentum Graece Nestle-Aland 28. revidierte Auflage (Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 2012)

The New Testament in its World, Nicholas Thomas Wright and Michael Bird

Colossians and Philemon, James Dunn (NIGTC)

Colossians and Philemon, Robertt McL Wilson (ICC)

Colossians, Paul Foster (Black's)

Colossians and Philemon, Douglas J. Moo (Pillar New Testament Commentary)

Colossians and Philemon, N.T. Wright (Tyndale)

Colossians and Philemon, Michael Bird (New Covenant Commentary)

Colossians, Markus Barth (Anchor Yale Bible)

Colossians and Philemon, J.B. Lightfoot

<成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %

リフレクション (Reflection Papers) 10 %

期末レポート (Final Report) 40 %

期末試験 (Final Exam) 40 %

毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出すること (10%)。期末レポートとしてはパウロ書簡から箇所を選んで釈義レポートを作成して提出すること (40%)。期末試験ではパウロ書簡を研究したり、釈義したり、釈義に基づいて説教したりする手順や手立て全般について問う (40%)

<準備学習等に必要時間>

2コマ1回の授業のために1時間の予習と1時間の復習が望ましい。

<課題 (試験やレポート) に対するフィードバック>

フィードバックを希望する場合には、メールで問い合わせくだされば、個別に対応させていただく。

<その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



Randall Short

2単位
 大学院棟 講義室A
 冬 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

旧約聖書「歴史書」の各書を相互に位置づけながら、全体の構成と時代背景について考察し、イスラエルの歴史物語を読む際に注意しなければならないヘブライ叙述の特徴について研究します。古代イスラエルの部族時代（ヨシュア記、士師記、ルツ記）、統一王国時代（サムエル記第一と第二、歴代誌第一）、分裂王国時代（列王記第一と第二、歴代誌第二）、捕囚後のペルシャ時代（エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記）について伝承された文献の中心的なテーマ、解釈学的な課題、また研究方法論を考察し、各書の歴史的、文学的、神学的意義を追求します。授業方法は、講義に重点を置きつつ、演習を併用します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 イントロダクション①
 第2週 イントロダクション②
 第3週 ヨシュア記
 第4週 士師記
 第5週 サムエル記
 第6週 列王記
 第7週 歴代誌
 第8週 エズラ記・ネヘミヤ記
 第9週 ルツ記、エステル記
 第10週 まとめ・発表

＜到達目標＞

旧約聖書の「歴史書」と呼ばれるヨシュア記～エステル記の神学的意義、文学類型、文学的技巧、歴史的・文化的背景、正典的コンテキスト等について学び、歴史書の中で、または聖書全体の中での各書の関連や位置づけを探ることによって、聖書リテラシーを身につけ、それを他人に教えらる人材の育成を目指します。そして、古代と現代の解釈問題や方法を配慮しながら、中心的な箇所をより深く研究することによって、歴史書の主なテーマについて洞察を深めます。

＜授業方法＞

講義, 実習, グループ学習（ワーク・ディスカッション）, 反転授業（事前学習前提）

＜(*)教科書・参考書＞

旧約聖書（原典版と様々な翻訳版）
 Bill T. Arnold and H. G. M. Williamson (eds.), Dictionary of the Old Testament: Historical Books. Downers Grove: IVP Academic, 2005.
 P. E. Satterthwaite and J. G. McConville, Exploring the Old Testament, Vol. 2: A Guide to the Historical Books. Downers Grove: IVP Academic, 2007.
 Iain W. Provan, V. Philips Long, and Tremper Longman, A Biblical History of Israel. Second Edition. Louisville: Westminster John Knox Press, 2015.

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 20 %
 課題 (Assignments) 20 %
 発表 (Presentations) 10 %
 期末レポート (Final Report) 30 %
 その他 (Other) 20 %
 その他=書評課題

＜準備学習等に必要時間＞

授業外学習時間はおおよそ280分になります。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

自由参加「Study Hall」の時間を設ける予定です。その時間やオフィスアワーの時間に更なるフィードバックを希望の方は連絡してください。

＜その他履修上の注意点＞

ヘブライ語講読・釈義の履修終了は望ましいが、まだ終了していなくても履修は可能です。質問のある方はメールを下さい（jshort@tcu.ac.jp）。



岡村 直樹

,,,,,A,B,C,
2 単位
大学院棟 講義室C
春 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

ミニストリー（diakonea）とは、神と人に仕えることを意味するギリシャ語です。神を知らなくては神に仕えることはできないのと同じように、人を知らなくては人に仕えることはできません。宗教改革者カルヴァンは、「神を知ることなくして、自分を知ることにはできない。自分を知ることなくして、神を知ることにはできない。（Institute 1.1.2-3）」と語りましたが、ミニストリーに関わる者が、自らを霊的に、また心理的に知ることは必要不可欠であると言えます。さらに教会というコンテキストにおける対話について考察し、ケアを主眼においた「対話スキル」を身につけます。一方向的な「お話し」でも、人に影響を与えることはできますが、ケアを必要としている人には、その人特有の必要があり、また「聞いてもらいたい」という思いが強く起こります。そのため、ケアを成立させるには、ケアをする人とされる人が出会い、ケアの目的にかなう、良い関係性が作られることが重要です。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイ11章）という御言葉を念頭に、現代の教会におけるケアについて考えます。

＜授業テーマと内容＞

- 第1週 ミニストリーの意味
- 第2週 自分の感情を知る
- 第3週 ライフヒストリーを通して自分を知る
- 第4週 親との関係性を通して自分を知る
- 第5週 「私のトリセツ」の作成
- 第6週 自分の対話スタイルを知る
- 第7週 ケアの対話の基礎①
- 第8週 ケアの対話の基礎②
- 第9週 ケアの対話の応用①
- 第10週 ケアの対話の応用②

＜到達目標＞

- 1) ミニストリー従事者である自分自身を理解し受け入れること。
- 2) ミニストリーの対象者である人間を理解するためのツールを獲得すること。
- 3) 教会における他者理解を深めるための具体的な方策を準備すること。

＜授業方法＞

講義, 演習, 実技, グループ学習（ワーク・ディスカッション）, 発表（プレゼンテーション）

＜(*)教科書・参考書＞

* 日常の神学、岡村直樹、いのちのことば社、2023年

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション (Reflection Papers) 25 %
課題 (Assignments) 25 %
発表 (Presentations) 25 %
期末レポート (Final Report) 25 %
各レポートの評価のポイントは、正直さ、分かりやすさ、具体性、ユーモアです。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラスの復習や課題のために用いる学習時間は、毎週のクラス時間の約1.5倍を目安とします。このクラスの毎週の授業時間は140分ですので、クラス外で毎週約210分の学習時間を確保して下さい。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

各課題は授業時に発表していただき、その場で教員、そしてクラスメートとの意見交換やリフレクションを実施します。

＜その他履修上の注意点＞

・教科書を購入し、クラスにご持参ください。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岡村 直樹

徐 有珍

,,,,,A,B,C,
2 単位

大学院棟 講義室C

秋 火曜-3限,4限

<授業の内容とねらい>

日本の公教育における宗教教育に関する議論や研究を対象とする「宗教教育」とは異なり、欧米の多くの高等教育機関において確立した学問である「宗教教育学(Religious Education)」は、宗教の概念、教義、儀式、習慣、歴史等の伝達プロセスやその方法論等を取り扱います。前半は、講義形式で宗教教育学の歴史的背景と全体像を把握しつつ、今日における宗教教育学の視点の有用性や課題について理解を深めます。後半は、宗教教育学研究の第一人者であるメリー・エリザベス・モアーが提唱する5つの宗教教育方法論と、それらの実践的取り組みについて演習形式で学びます。(モアーは「開かれた教育」「開かれた教育者」の必要性を主張する今日の北米における宗教教育の牽引者の一人です。彼女の唱える真の教育者の姿とは、既成概念に縛られる事なく、世界で起こる様々な出来事に生徒の目を向けさせ、教育の対象である生徒との関係性を重視しつつ、自らも彼らからも学ぼうと心がけ、常に新しい学びの可能性に目を向ける教育を行う教育者です。)

<授業テーマと内容>

- 第1週 なぜ宗教教育なのか
- 第2週 「多様性と課題」受講生発表とディスカッション
- 第3週 宗教教育と環境①
- 第4週 宗教教育と環境②
- 第5週 教育構造の多様性と移り変わり
- 第6週 宗教教育の方法論①：プロセス現象学的方法論
- 第7週 宗教教育の方法論②：ナラティブ・メソッド
- 第8週 宗教教育の方法論③：デベロップメンタル・メソッド
- 第9週 新しい宗教教育プログラムの構築①
- 第10週 新しい宗教教育プログラムの構築②

<到達目標>

- (1) 宗教教育学という学術分野の歴史的背景とその全体像を把握し、キリスト教におけるその位置を理解すること。
- (2) メリー・エリザベス・モアーが提唱する5つの宗教教育方法論と、それらの実践的取り組みについて理解すること。

<授業方法>

講義, 演習, グループ学習 (ワーク・ディスカッション), 発表(プレゼンテーション)

<(*)教科書・参考書>

岡村直樹「メリー・エリザベス・モアーのプロセス現象学的教育論とその展開」『キリスト教教育論集』
日本キリスト教教育学会, 2011年, 29~46頁。
Naoki Okamura, "Intercultural Encounters as Religious Education." The Journal of the Religious Education 104. May-June 2009, pp. 289-302.
Thomas H. Groome, Christian Religious Education. New York: John Wiley & Sons, 1999.
Robert W. Pazmino, Principles and Practice of Christian Education. Eugene: Wipf and Stock Publishers, 2002.
M. E. Moore, Teaching From Heart: Theology and Educational Method. Valley Forge: Trinity Press International, 1998.

<成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 10 %
リフレクション (Reflection Papers) 10 %
課題 (Assignments) 20 %
発表 (Presentations) 30 %
期末レポート (Final Report) 30 %
すべての課題は、授業時の相互発表の対象となります。

<準備学習等に必要な時間>

クラス時間の約2倍の時間(4~5時間)を、本クラスのために用いる毎週の学習時間とすること。

<課題(試験やレポート)に対するフィードバック>

授業時の相互発表を通して、クラスメートや教員からのフィードバックを受けます。

<その他履修上の注意点>

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



岡村 直樹

.....A,B,C,
2 単位
大学院棟 講義室C
冬 火曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

本科目は、宗教的回心や献身といった宗教と人間の関係性の変化に関わる現象に着目し、そのプロセスや心理メカニズムの理解を目指します。ジェームス・ファウラー（Emory University）の心理的発達理論を応用した「信仰発達論」から、宗教心の発達の基本概念を学び、続けて、ジョン・ロフランド（University of California, Davis）等の研究を通し、宗教的回心の類別や、それらの社会的・文化的・心理的背景との関連における宗教心の発達について考察します。また後半は、現代日本の教会が直面する心理的課題や問題について話し合います。まず、クリスチャン・リーダーとして持つべき「心の健全さ」とは、どのような状態を指すのかについて、個人差も十分に考慮しつつ考えます。その上で、今日的課題である、うつ、発達障害、アダルトチルドレン、高齢者の心理的課題、死の準備と看取りといったトピックを取り上げ、教会の対応について共に考えます。授業形態は、講義と演習を併用します。

＜授業テーマと内容＞

第1週 ①宗教性の発達：聖書の教える成長と発達心理学の基本概念
第2週 ②宗教性の発達：ジェームス・ファウラーの信仰発達論・理論
第3週 ③宗教性の発達：ジェームス・ファウラーの信仰発達論・応用
第4週 ④宗教性の発達：若者の信仰発達とその課題
第5週 ⑤宗教性の発達：中高年の信仰発達と課題
第6週 ⑥宗教と心理的ケア：メンタルヘルスと教会
第7週 ⑦宗教と心理的ケア：うつと自殺予防
第8週 ⑧宗教と心理的ケア：発達障害とアダルトチルドレン
第9週 ⑨宗教と心理的ケア：高齢者の心理的課題
第10週 ⑩宗教と心理的ケア：死の準備と看取り

＜到達目標＞

- （1）宗教的回心や献身といった宗教と人間の関係性の変化に関わる現象、及びそのプロセスやメカニズムを理解すること
- （2）ジェームス・ファウラーの宗教心の発達の基本概念、ジョン・ロフランドの宗教的回心の類別、及びそれらの社会的・文化的・心理的背景との関連における宗教心の発達について理解すること
- （3）キリスト教が重視する「共感力の涵養」「相互愛の形成」を宗教心の発達という観点から深く考察できるようになる事

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

岡村直樹「クリスチャンユースの信仰成長に関するグランドセオリーを用いた質的研究」『キリスト教教育論集』日本キリスト教教育学会、2010年、1～16頁。
岡村直樹「シニアミニストリーとスピリチュアリティの質的研究」『キリストと世界』（東京基督教大学紀要）第19号、2009、113～137頁。
堀江宗正『歴史のなかの宗教心理学—その思想形成と布置』岩波書店、2009年。
James W. Fowler, Stages of Faith. New York: Harper One, 1995.
James Fowler, Faith Development and Pastoral Care. Minneapolis: Augsburg Fortress, 1987.

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 10 %
リフレクション (Reflection Papers) 10 %
課題 (Assignments) 20 %
中間レポート/試験 (Midtem Report/Exam) 30 %
期末レポート (Final Report) 30 %
すべての課題は、クラスにおいて相互発表していただきます。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス時間の約2倍の時間（4～5時間）を、本クラスのために用いる毎週の学習時間としてください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

すべての課題は、クラスにおいて相互発表され、その場で教員やクラスメートからのフィードバックを受けます。

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



齋藤 五十三

,,,,,A,C,
2 単位

春 金曜-3限,4限

<授業の内容とねらい>

本コースは、現在のキリスト教の主要な教理体系が、歴史的にどのような変遷をたどりながら形成されてきたのかを学ぶことを主な内容とします。本コースは、伝統的にはいわゆる「教理史」として扱われてきた内容です。それは単に歴史的観点から扱うのではなく、キリスト教史もしくは教会史と組織神学（教義学）の間に位置する学際的な分野としての位置付けを持っています。本来、教理史の内容はまことに膨大なものですが、十週の限られたスケジュールですので、通史として全体を扱うことはせず、プロテスタントの組織神学の観点から重要と思われる教理に焦点を絞りながら、それらが形成されてきた歴史の背景や、そこで交わされた議論を探り、神学的な論点がどこにあるのかを確認しつつ、その上で実践的かつ今日的な意義を学ぶことを目指します。また、授業の準備にあたっては、毎回、関連する一次資料を読んでいただきます。一次資料を神学的・歴史的に読み解き、分析する力を養うこともまた本コースのねらいです。

<授業テーマと内容>

- 第1週 福音の準備（ヘブライズムとヘレニズム）・キリスト教の垂流・公同の教会・弁証家
- 第2週 三位一体論の形成
- 第3週 キリスト二性一人格論の形成
- 第4週 自然と恩恵・東方教会（神論・キリスト論）と西方教会（人間論・救済論）
- 第5週 中世神学・スコラ主義神学・中世末期の思想
- 第6週 プロテスタント宗教改革（1）
- 第7週 プロテスタント宗教改革（2）
- 第8週 宗教改革期の論点（聖書論、聖餐論）
- 第9週 正統主義・啓蒙主義・敬虔主義・ロマン主義
- 第10週（特別回）感染症と向き合う教理史

<到達目標>

- ①今日、キリスト教の教理体系として受け入れられているものの形成過程にどんな思想や背景があったのか、その歴史の大枠を把握します。
- ②そうした大枠を把握することで、キリスト教の教理体系が机上の空論ではなく、世の政治思想や人々の生活と密接に繋がった有機的な「生き物」であり、そうした教理形成が、歴史における「教会」や「キリスト者たち」の信仰のかたちを形成してきたことを理解します。
- ③上記のような「生きた」教理理解を得ることで、今日の教理的課題に向き合う正しい姿勢を歴史的・神学的・実践的に培っていくことを目指します。

<授業方法>

講義, 演習, 実技, 実習

<(*)教科書・参考書>

- J.ペリカン著、鈴木浩訳『キリスト教の伝統：教理発展の歴史』第1-5巻
- A.E.マクグラス著、神代真砂実訳『キリスト教神学入門』教文館

<成績評価の方法と基準>

授業参加度 (Class Participation) 30 %

リフレクション (Reflection Papers) 20 %

期末レポート (Final Report) 50 %

授業参加度は毎回提出を求めるフィードバックシート（授業ノート）でポイントをつけていきます。リフレクションは、毎回、さまざまな一次資料を読んでいただいた上で提出していただくものです。

<準備学習等に必要な時間>

リアクション、フィードバックのため、毎週280分を確保してください。

<課題（試験やレポート）に対するフィードバック>

リアクションペーパー、フィードバック、レポートそれぞれにフィードバックを返します。

<その他履修上の注意点>

J.ペリカン著、鈴木浩訳『キリスト教の伝統：教理発展の歴史』第1-5巻が主要な参考書となります。学生には高額ですので、図書館のリザーブ図書に指定します。
本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。



須藤 英幸

,,,,,A,C,
2 単位大学院棟 講義室C
秋 水曜-3限,4限

＜授業の内容とねらい＞

「神学・教会研究Ⅷ（近現代のプロテスタント神学）」は、近現代の多様な神学を扱います。近代が理性の時代だとすれば、現代は多様化の時代だと言えます。これに呼応した形で、まず自由主義神学が近代神学を形成しましたが、現代になると、特に19世紀後半は神学が多様化し、福音主義神学を含めた神学の世界的潮流を把握することもままならない状況です。同時に、神学の発信地がかつてのヨーロッパからアメリカへ、さらに世界へと広がりを見せています。したがって、現代神学を正しく把握するためには、世界の人々との相互理解や宣教の視点も求められます。

本研究では、学生は指定されたテキストの読書範囲を事前に読んで、リスポンス課題を提出します。本研究のねらいは、テキストに真摯に向かいつつ、授業における自由な議論や発表を通して、近現代の神学を適切にかつ健全に理解できるようになることです。くわえて、現代神学との関わりを深めることによって、現代に生きる自分自身の信仰生活を批判的に吟味することができ、また、自分の誤りを自ら修正していける能力を身につけることです。

＜授業テーマと内容＞

第1週 宗教改革者の神学

第2週 バルトと新正統主義神学

第3週 福音主義神学とエヴァンジェリカル

第4週 発表日1

第5週 フェミニスト神学

第6週 アジアとポストコロニアル神学

第7週 ポストリベラル神学と物語の神学

第8週 発表日2

第9週 自由意志による神義論

第10週 十字架の神義論（受講者の進捗状況などにより、変更することがあります。）

＜到達目標＞

- ・近現代神学、特に多様な現代神学の流れを全体的に把握し、説明できるようになる。
- ・近現代神学の意義を適切に理解し、公正に評価できるようになる。
- ・自分の信仰的立場を客観的に理解することができるようになる。

＜授業方法＞

講義, 発表(プレゼンテーション)

＜(*)教科書・参考書＞

- *『現代神学の最前線』、栗林輝夫、新教出版社、2004年
- *『アメリカ現代神学の航海図』、栗林輝夫、新教出版社、2018年
- *『苦しみと悪を神学する: 神義論入門』、マーク・S.M.スコット著、加納和寛訳、教文館、2020年
- 『キリスト教史 下巻』、フスト・ゴンザレス著、石田学・岩橋常久訳、増補版、新教出版社、2020年

＜成績評価の方法と基準＞

リフレクション (Reflection Papers) 20 %

発表 (Presentations) 40 %

期末レポート (Final Report) 40 %

読書課題 20 %、発表 40 %、期末レポート 40 %

- ・読書課題は、指定されたテキスト範囲のリフレクションです。読んだことが分かるように、A4用紙（余白25mm、文字11ポイント）で30行以上にまとめたリフレクションを、次の授業までにアップロードしてください。
- ・発表は、第4週と第8週の授業で各学生が発表するものです。
- ・期末レポートは、読書課題や発表をまとめ、それに総括を付したものです。

＜準備学習等に必要な時間＞

クラス外で毎週約360分の学習時間を確保してください。

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

読書課題の記入方法に問題があるときは、お知らせします。

＜その他履修上の注意点＞

特にありません。



＜授業の内容とねらい＞

学部の「日本キリスト教史（通史）」はアジア太平洋戦争期までを扱い、大学院の「日本キリスト教史」は日本プロテスタントの戦後史を扱います。最初の2回で講義を行い、戦中と戦後にそれぞれ一回ずつをあてて概観します。3回目は学生全員が一冊ずつ各個教会100年史を読みディスカッションを行います。ここでは教会における歴史資料保存や教会史の執筆についても考えます。7回は学生の発表に基づく演習です。演習は、戦後70年を7回に分け、その時代について考察しますが、学生はそれぞれその時代のテーマを決めて発表します。これは最初の時間に相談して決めます。発表に基づいて教員の解説も加えつつ、全員での討論を行います。本学の背景にあるプロテスタント福音派の戦後史を、いわゆる主流派のそれと比較検討し、その特徴と課題を考察します。こうした検討を通して、学生は自分の所属教会のおかれた位置を確認し、これを尊重しつつ他のキリスト教とも協働できるよう教会史的知識を身につけることをめざします。

＜授業テーマと内容＞

第1週 アジア太平洋戦争下の「日本的キリスト教」
 第2週 プロテスタントの戦後史概論
 第3週 各個教会史から見た戦中戦後、教会アーカイブスについて
 第4週 1945年～1954年
 第5週 1955年～1964年
 第6週 1965～1974年
 第7週 1975～1984年
 第8週 1985～1994年
 第9週 1995～2004年
 第10週 2005～今日

＜到達目標＞

日本のキリスト教の戦中と戦後の歴史についての基本的知識を身につけること。そこにある教会史的重要課題を把握すること。自分が属する教派の特徴を理解すること。以上をふまえてキリスト教会全体と日本社会における使命を確認する。

＜授業方法＞

＜(*)教科書・参考書＞

中村敏『日本キリスト教宣教史』いのちのことば社、2009年。
 山口陽一他『教会アーカイブズ入門 記録の保存と教会史編纂の手引き』いのちのことば社、2010年。
 日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教史年表 改訂版』教文館、2006年。
 土肥昭夫『思想の杜 日本プロテスタント・キリスト教史より』新教出版社、2006年。
 日本福音同盟『21世紀の福音派のパラダイムを求めて』日本福音同盟、2006年。
 鈴木範久『日本キリスト教史 年表で読む』教文館
 山口陽一ほか『聖書信仰の成熟をめざして』いのちのことば社
 新教出版社編集部『戦後70年の神学と教会』新教出版社
 第5回日本伝道会議『日本開国とプロテスタント宣教150年』いのちのことば社
 「教会と政治」フォーラム編『キリスト者から見る天皇の代替わり』いのちのことば社

＜成績評価の方法と基準＞

授業参加度 (Class Participation) 30 %
 課題 (Assignments) 40 %
 期末レポート (Final Report) 30 %
 発表はレジュメを用意して20～30分、レポートはA4用紙に6000～7000字。

＜準備学習等に必要な時間＞

毎週1時間、発表者は10～15時間

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

発表、リフレクション、レポートに対してコメントします。

＜その他履修上の注意点＞

本科目は、「どこでもTCU」対象科目です。正規生以外の参加の可能性があります。

2023年度 東京基督教大学 学事暦

春学期 (4-7月)

秋学期 (8-11月)

冬学期 (12-3月)

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29 (祝日)
30						

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 (祝日)	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 (祝日)	4 (祝日)	5 (祝日)	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18 (祝日)	19	20	21	22	23 (祝日)
24	25	26	27	28	29	30

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1 (祝日)	2	3	4	5	6
7	8 (祝日)	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9 (祝日)	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 (祝日)	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23 (祝日)	24
25	26	27	28	29		

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 (祝日)	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 (祝日)	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 (祝日)	24	25
26	27	28	29	30		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20 (祝日)	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

《秋学期の予定》変更になる場合があります。

7月24日(月) 申込受付開始
 8月7日(月) 申込締切・必要書類提出締切
 8月15日(火) 受講許可通知
 8月25日(金) 授業開始日
 8月31日(木) 受講料支払期限
 11月7日(火) 授業終了
 11月8日(水)~14日(火) 補講・試験・レポート作成期間
 11月14日(火) 学期終了
 12月中旬頃 成績通知

● 日付の数字の下に__がある日は授業日

授業あり
25

授業なし
29

● 祝日であっても
授業のある日

授業あり
23 (祝日)
授業日

● 土、日、祝日、
長期休暇等の休み

休み
5

● 学期中、学校行
事のため授業なし

授業なし
26
学校行事
授業なし

本学が基準とする信仰は、旧・新約聖書に一貫して啓示され、古代公同信条に表明され、宗教改革において宣明された聖書的・歴史的・正統的信仰です。この信仰は、近代の自然主義的な啓蒙思想や自由主義神学の挑戦を受けながら、正統信仰の弁証と敬虔な信仰の実践とを目指す福音主義へと展開するにいたりました。その福音主義信仰を根本において支える個々の信仰箇条は以下の9箇条に述べるとおりです。

1. 66巻からなる聖書は、聖霊の完全な靈感によって、それぞれの著者を通して、記されたものです。したがって、聖書の記述には、誤りはありません。聖書は、神が救いについて人々に啓示しようとされたすべてのことを含み、信仰と生活との唯一、絶対の規範となるものです。
2. 生ける真の神は唯一で、永遠から永遠に、父・子・聖霊の三位であります。
3. 神は無から、目に見えるもの見えないものすべてを創造されました。すべての被造物は、神の絶対主権のもとにあります。
4. 人類の父祖アダムは、神のかたちにかたどって創造されました。アダムは、初め、神と正しい関係を保ちましたが、サタンの誘惑により、神のみこころに背いて罪を犯しました。その結果、罪の刑罰と腐敗をこうむって、霊的にも、肉体的にも死に服しました。ですから人間は、すべて罪の性質をもって生まれ、その思いとことばと行為において罪あるものです。
5. わたくしたちの主イエス・キリストは真の神であり、また真の人間であります。主は聖霊による身ごもりを経て、処女マリヤから生まれました。主は、世の罪のために十字架にかかり、死んで葬られ聖書に従って三日目によみがえりました。主は天に昇って神の右に座し、わたくしたちのために大祭司の務めを果たされます。
6. 主イエス・キリストの身代わりの死のおかげで、主を信じる者はみな、罪をゆるされて義と認められ、神の子とされて罪の支配から解放されます。これ以外に救いの道はありません。
7. 聖霊は、罪ある者に、罪を認めさせて、信仰に導き、聖潔と奉仕の生活をおくる力を与えて、キリストのかたちに似る者としてくださいます。
8. 教会は、そのかしらであるキリストのからだですから、聖霊によって新しく生まれた者は、みな教会の一員です。地上の教会はそのかしらであるキリストにふさわしく信仰と純潔を保ち、またその命令に従って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなければなりません。
9. わたくしたちの主であり、また救い主であるキリストは、したしく肉体をもって再臨されます。義なる者も不義なる者も、それぞれの肉体をもってよみがえらせ、永遠の祝福か、永遠の刑罰かのどちらかへ定められます。終わりに、主は、すべてのものを新たにしてい、み国を父なる神におわたしになります。